

支え合いで つくるかたち

家族構成：

祖父（65歳）：パークゴルフが趣味。
 教師のお仕事をしていて、今は非常勤で働いている。
 祖母（62歳）：料理と裁縫が得意。今はお花の教室にも通っている。
 父（40歳）：会社員。休日に子供と一緒に遊ぶのが楽しみ。
 母（37歳）：料理が得意で、人と話すことが好き。食堂をメインで経営をしている。
 長男（10歳）：運動が得意で、サッカーチームに入っている。
 長女（5歳）：絵を描くことが好きで、お兄ちゃんのことが大好き。
 学生（大学2年）：医学部。趣味はお菓子作りや料理。
 学生（大学1年）：将来は教師になりたいと教育学部に入學。
 人前で話す練習中。

支え合いでつくる生活のかたち：

大学生はなぜここに住むのか。

この家は一般的なアパートと比べて家賃が安く設定してある。そこには理由があり、代わりに食堂のお手伝いや子供達のお世話、ゴミ出しなどの日常の小さな家事をして欲しいというお願いからだ。ここでは**お互いの関わりによって生活が成り立つ。**

共有スペース:各階にみんなのスペースを分散させて敷地全体で移動する動線を意識した。食事、お風呂と1日の中で必ずすることを共有することで必然と顔を合わせる事となる。1日3食のうちどれか一食は一緒に食べること、お風呂場は時間制で男女分かれて使ったり、家族で使ったりする。一緒に暮らすためのルールから一人暮らしとは違うルーティンが生まれる。学習スペースでは大学生と子どもたちが勉強したり、みんなで共有の本棚があり、本の貸し借りをしたりする。何にもない日でもこの時間が日常の楽しみになればよいと考えた。そのため、各部屋のキッチンやお風呂、シャワー室は必要最低限の大きさである。

自分の部屋だけでなくいろんな自分のお気に入りの場所を見つけて過ごしてほしい。

その部屋で過ごす時間帯を考え、食堂に人が集まるのが屋なので寝室を1階の隣に配置し、お風呂を食堂の上に配置した。

共有スペース

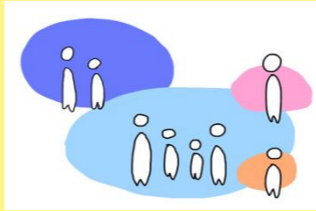
- 1F: 学習スペース
- 2F: お風呂場
- 3F: 食堂

設計趣旨：

この家では祖父母と4人家族と共に血縁関係のない二人の大学生と一緒に暮らしている。大学生という存在は4年間、長くても6年間と限られた期間しか同じ時を過ごすことができない。その短い間に新たな経験や関係を持ち込み、住まいに変化をもたらす。そして、住民の入れ替わりによって関係が途切れるのではなく、新たな繋がりが生まれるきっかけとなる。前の住民との繋がりが今の住民の手助けになることがあるかもしれない。

一緒に暮らすとは：

一緒に暮らすとはただ同じ場所で暮らすことだけではない。顔を直接合わせ、同じ時間を共有する時こそに意味があると考えた。そして、人との関わりの中で、自分というかたちがつくられていく。そのかたちに同じものは1つとしてない。自分でいられる場所がこの家にもたくさんできたら。1人1人、1つ1つがあってこの家の意味となる。



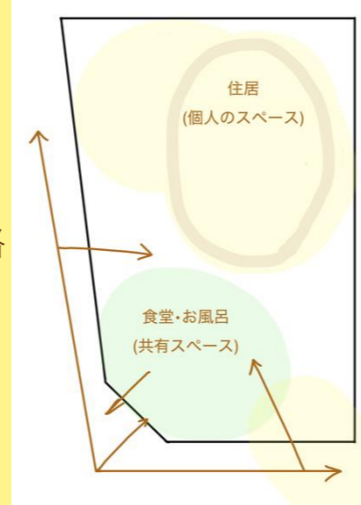
対象敷地：

鹿児島県鹿児島市にある、鹿児島大学近くの敷地。また近くに小学校が二校あり双方からの距離があまり変わらない位置にある。西側の少し進んだ先には公園があり、対象敷地に隣接する北と東側の敷地には二階建ての住宅が建っている。大きな通りから少し入った場所にあり、車の交通量もあまり多くはない。また、西から東へと道路に傾斜がある。

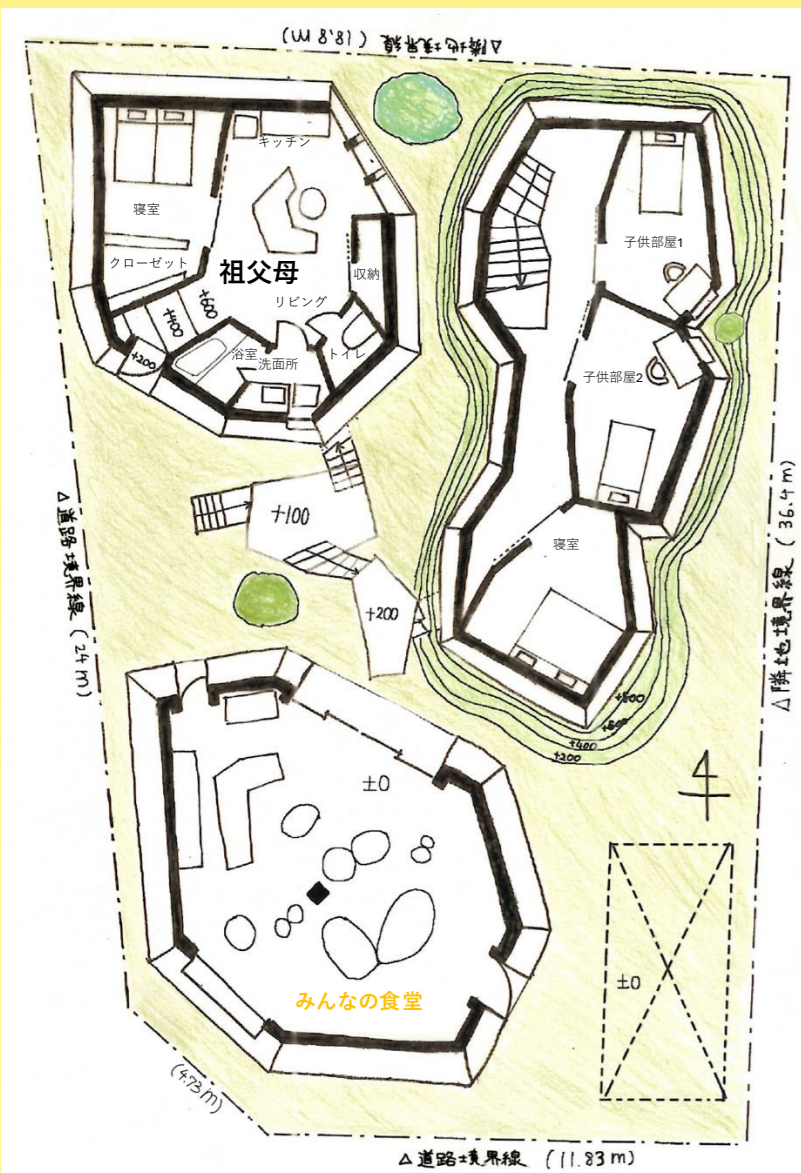


ゾーニング：平面から⇒

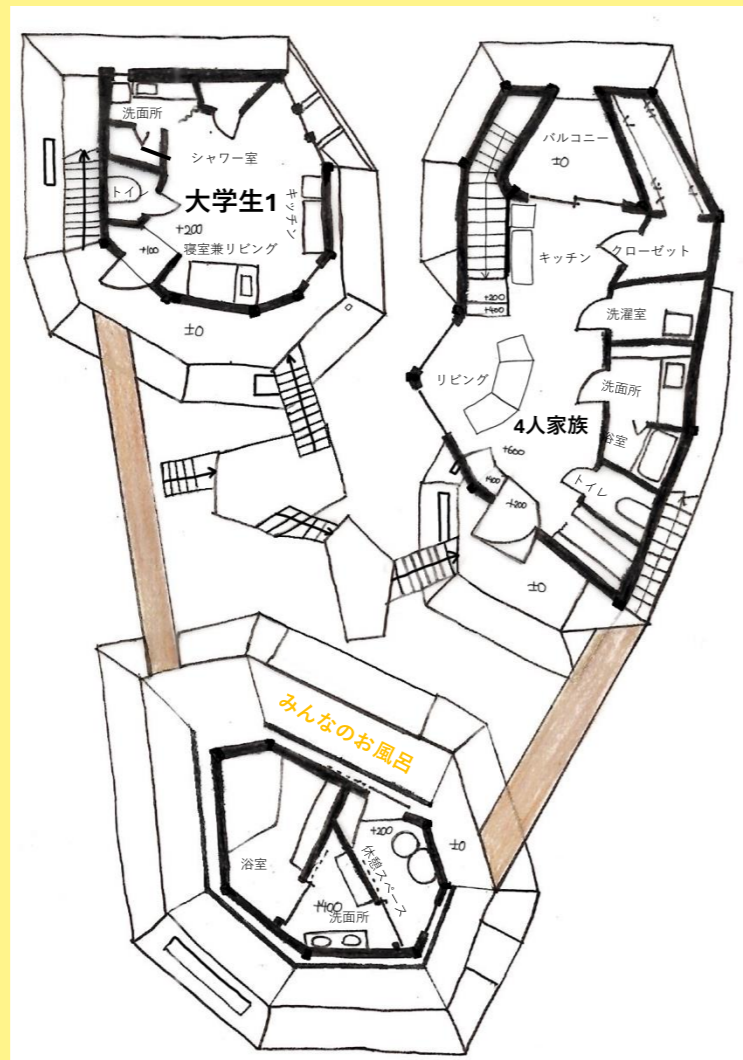
近くの公園は小学生がよく利用していて公園に面している道路は対象敷地近くと比べてが交通量と人通りが多いので、西側から人が来ることが多い。それに加え道路が傾いているので、手前に食堂を置くことにより入ってきやすく目につきやすいと考えた。それに対して住居を奥に配置することでスペースを分ける。また地面に高低差をつけることで境界をよりはっきりさせた。



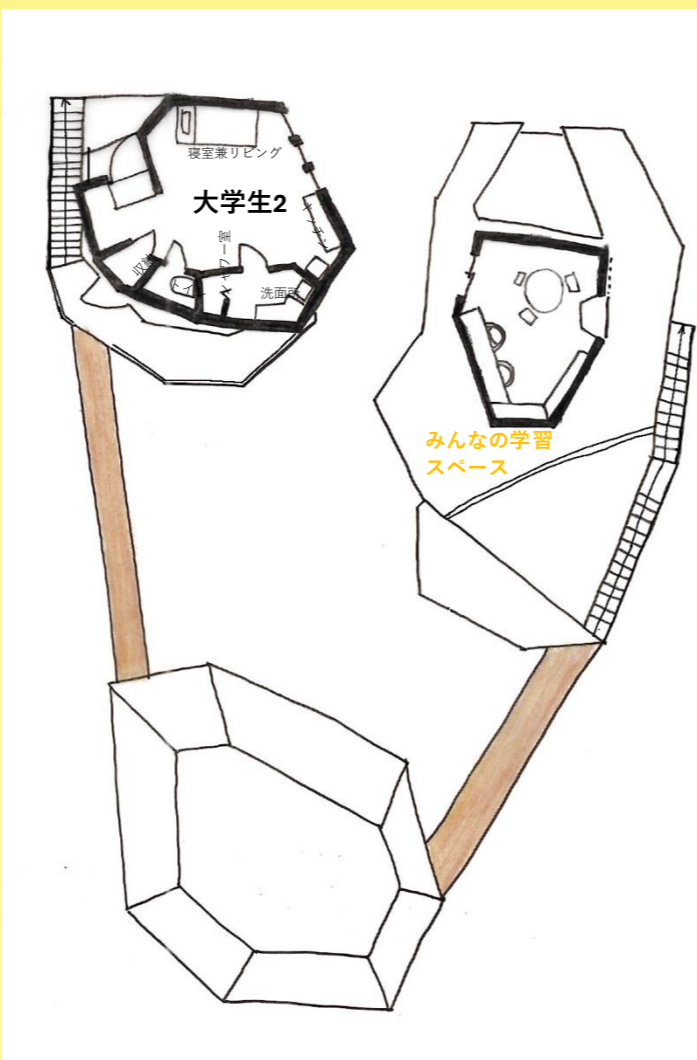
祖父母の住居は一階に配置し、移動負担の軽減と将来的な身体変化を考えた。個人のスペースは外側に向けて窓を配置した。祖父母と大学生のスペースは大きな窓を印象付けるため、玄関から広がる配置とした。



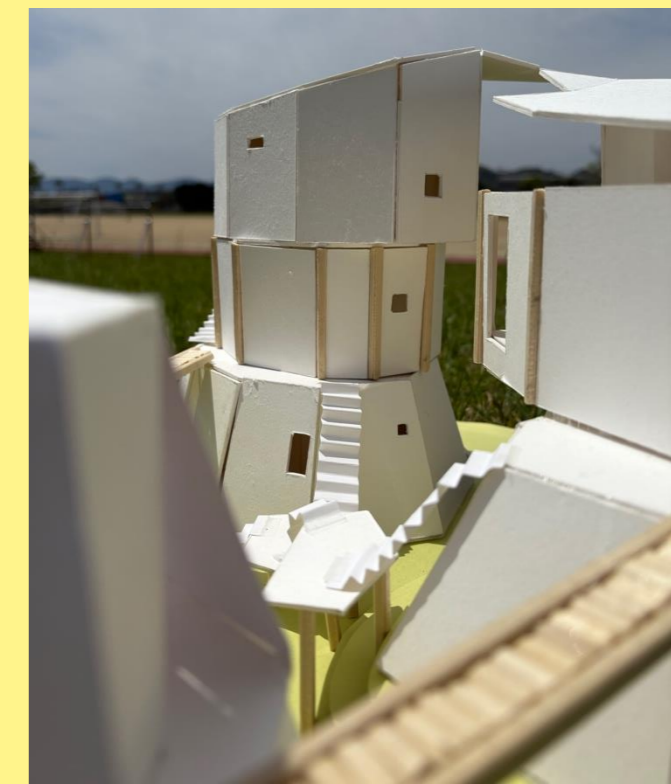
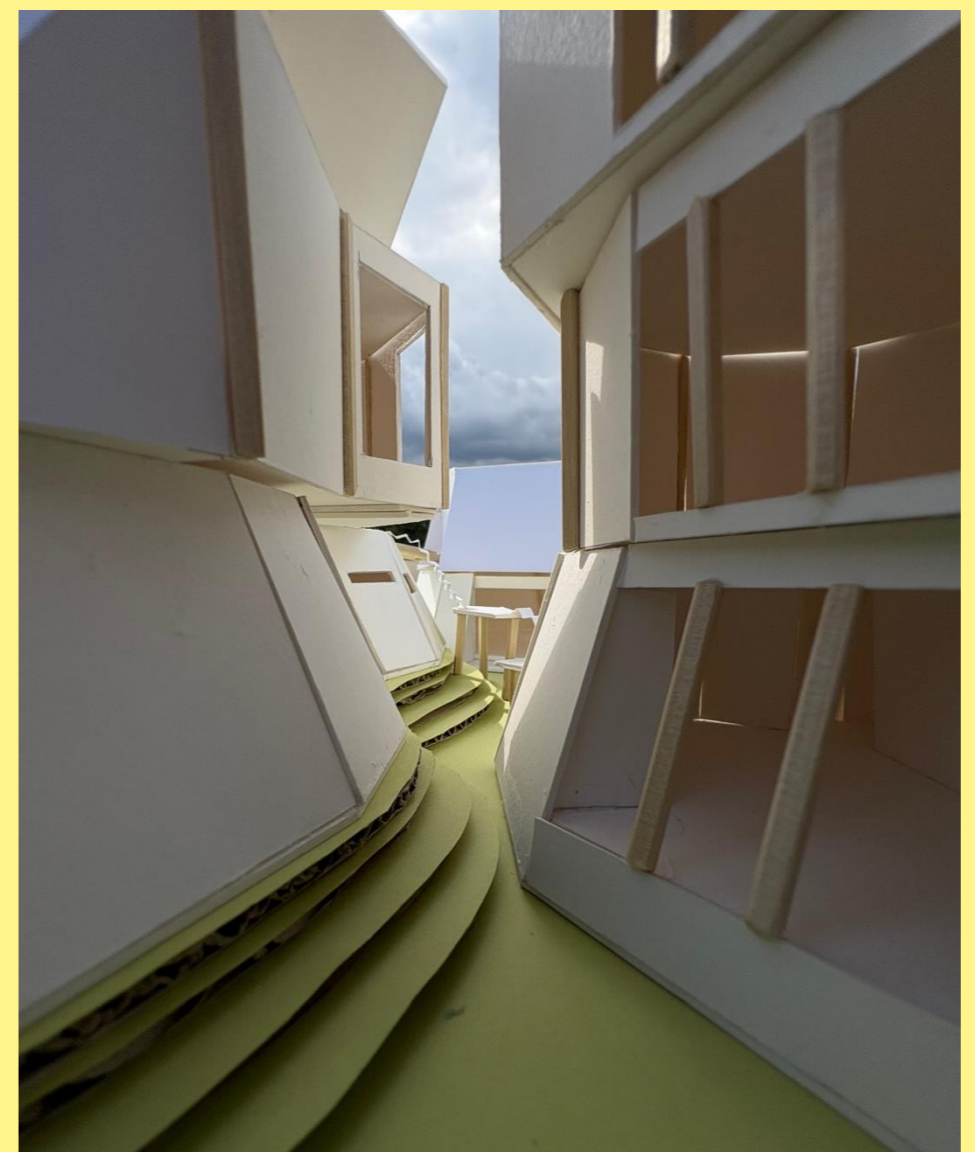
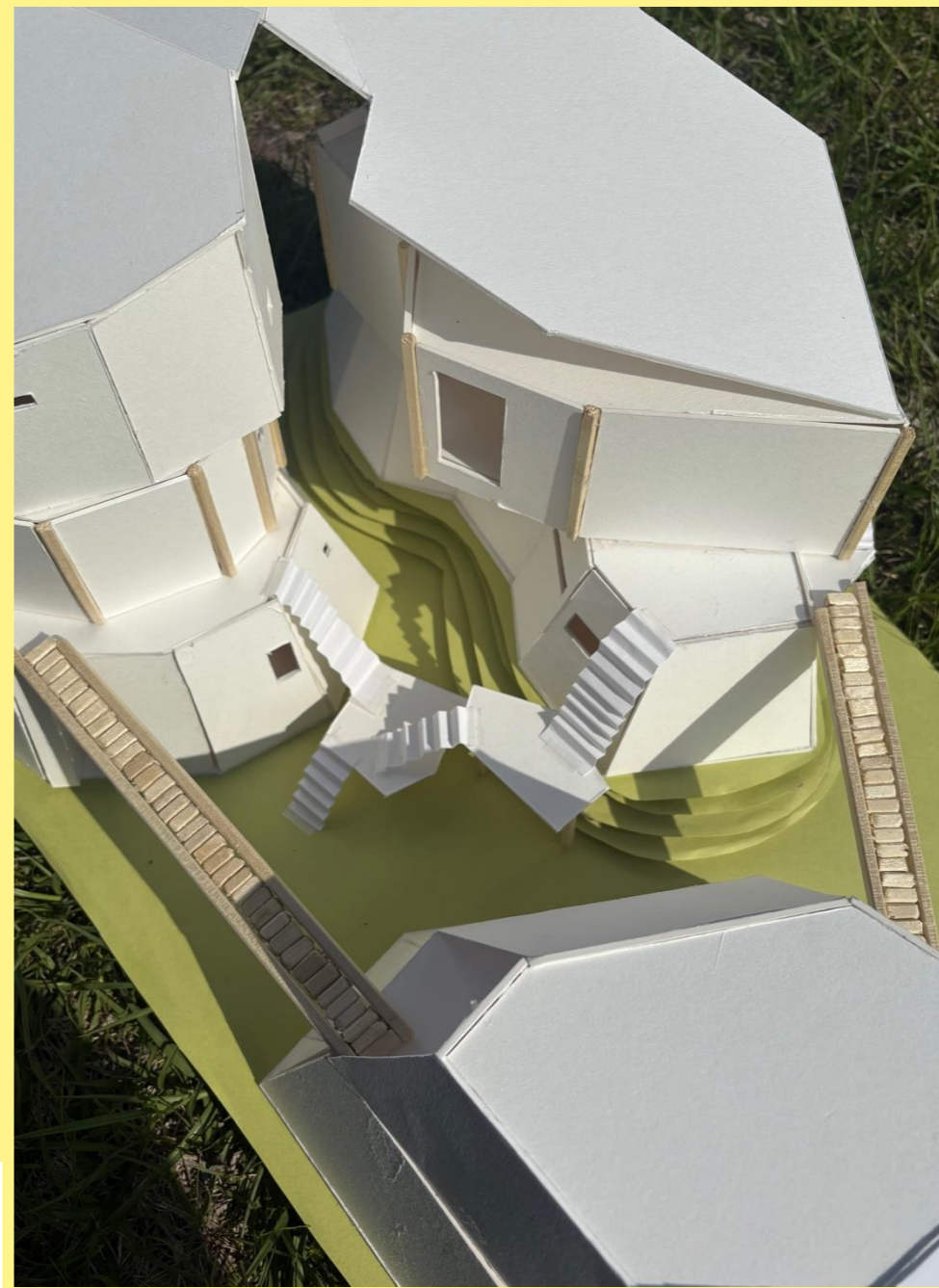
配置図兼1階平面図



2階平面図



3階平面図



材料費：
 厚紙100円×5
 割り箸100円
 画用紙60円×2
 色画用紙60円×2
 ダンボール
 (端材) 0円
 合計 840円

2階のブリッジが屋根と移動の役割を果たす。踊り場でも人が休憩できる。

かたちのダイアグラム：

1つ1つがあつてのかたちを作るためにそれぞれの階に意味を持たせた。1階は基礎として壁を斜めに2階は建物との輪郭をはっきりさせるため、軸が見えている。3階は屋根の傾斜と一体化させた形となっている。それぞれのかたちをもち分離しているように見えないようにした。

